

2007年5月30日

経済同友会 2006年度社会的責任経営推進委員会 報告書（要約）

## CSRイノベーション 事業活動を通じたCSRによる新たな価値創造 - 日本企業のグッド・プラクティス -

（報告書の目的）

1. 2004年度からの3年間の委員会活動の集大成。
2. 事業活動を通じたCSRがメインテーマ。  
事業活動を通じたCSRのグッド・プラクティスを示すことにより、日本企業の取り組みのさらなるレベルアップを促す。
3. 製造業のみならず、非製造業にも焦点。

（報告書の構成）

・巻頭言： 経済同友会 前代表幹事 北城恪太郎

「社会から信頼され、好まれ、選ばれる企業になるために」  
～ 「本業」を通じたCSR活動により、活力ある社会の構築に貢献すべき。

・総括： 2006年度社会的責任経営推進委員会 委員長 原良也

- ・CSRの基本認識は、社会の動向に「対応する段階」から、社会へのインパクトを「創出する段階」へ移行。
- ・事業活動を通じて社会的課題を解決することは、企業の競争力を高める。
- ・メインタイトル「CSRイノベーション」に込めた二つの意味。
  - 「CSRによるイノベーション」：CSRにより事業活動も変革し、それが企業の競争力を高め、社会を発展・成長させていく。
  - 「CSR自体のイノベーション」：CSRに対する考え方も変革するため、何が今重要課題なのか、企業は常に意識して行動すべき。

## ・ 課題別の事例

- ・ 現在検討が進められている「ISO26000」の7分野： 環境、 人権、 労働慣行、 組織のガバナンス、 公正な商習慣、 コミュニティ参画 / 社会開発、 消費者課題等をベースとし、「事業活動を通じたCSR」という趣旨に鑑みて「コンプライアンス・ガバナンス」「フィランソロピー」分野を対象から除き、下記の4分野の事例を調査・分析。

### 顧客の立場に立った商品・サービス

- ・ バリアフリー、ユニバーサルデザインの観点から、店舗、商品・サービスなどの事例を調査。

### 従業員が働きやすい職場

- ・ 人材の有効な活用を「多様性」と「能力開発」の両面から分析。 現在、日本社会が直面する問題であるジェンダーの多様性 = 「女性」に焦点を絞った。

### 地域社会との共存・コミュニティの再生

- ・ 地域社会の新しいニーズに対する事業活動を通じた取り組みについて、従来の社会貢献活動を超えた事例を紹介。

### 環境ビジネスの推進

- ・ 単なる環境配慮や環境マネジメントにとどまらない、真のイノベーションと呼べるものを紹介。

## ・ 別添

- ・ 課題分野別のグッド・プラクティスの一覧

アンケート調査期間：2006年12月～2007年3月

アンケート送付先：155社（過去3年間委員所属企業 / ワーキングG推薦企業）

アンケート回答企業：92社（回答率59.4%）

以上

# 企業の「事業活動を通じたCSR」のグッド・プラクティス

